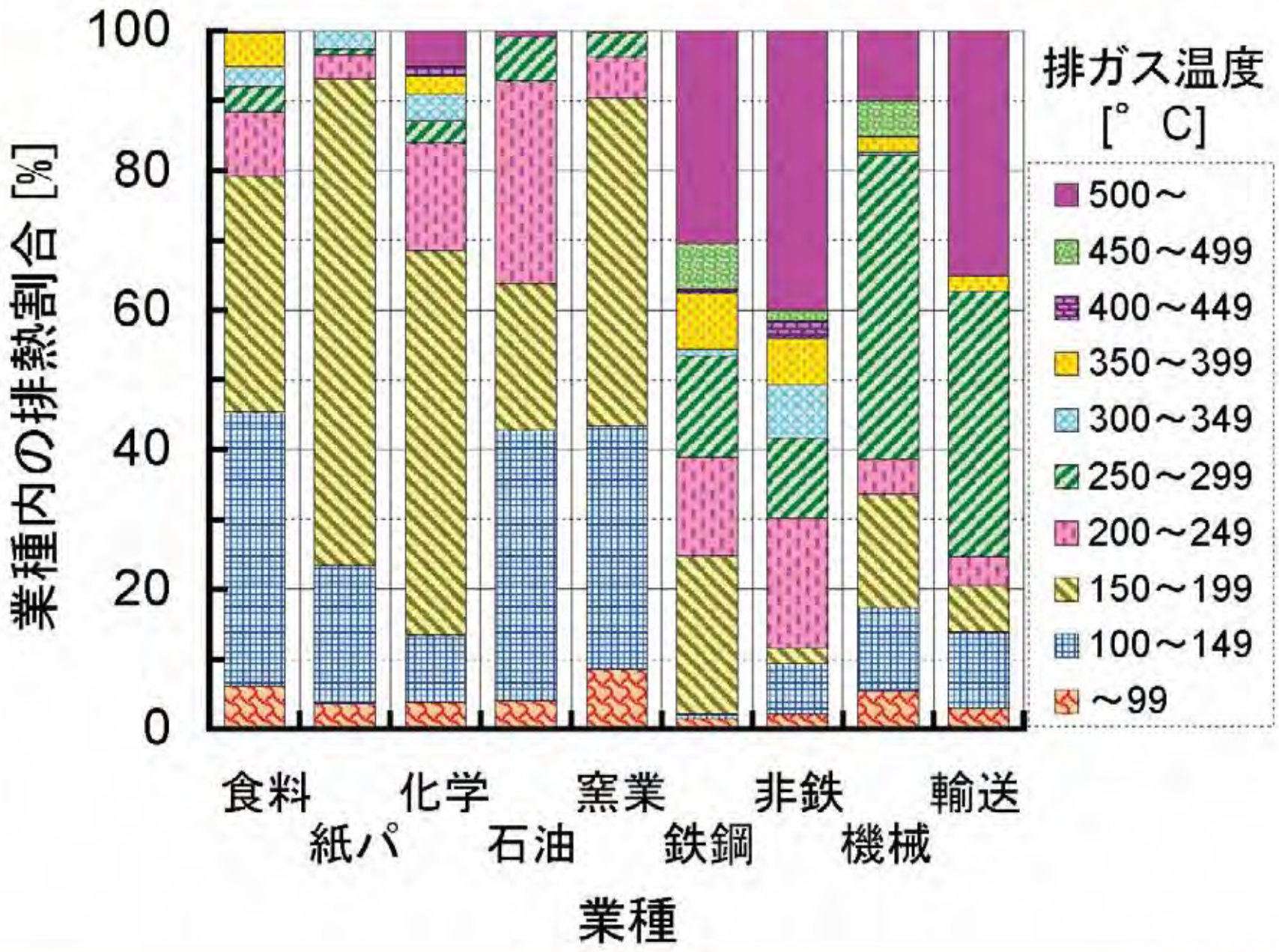
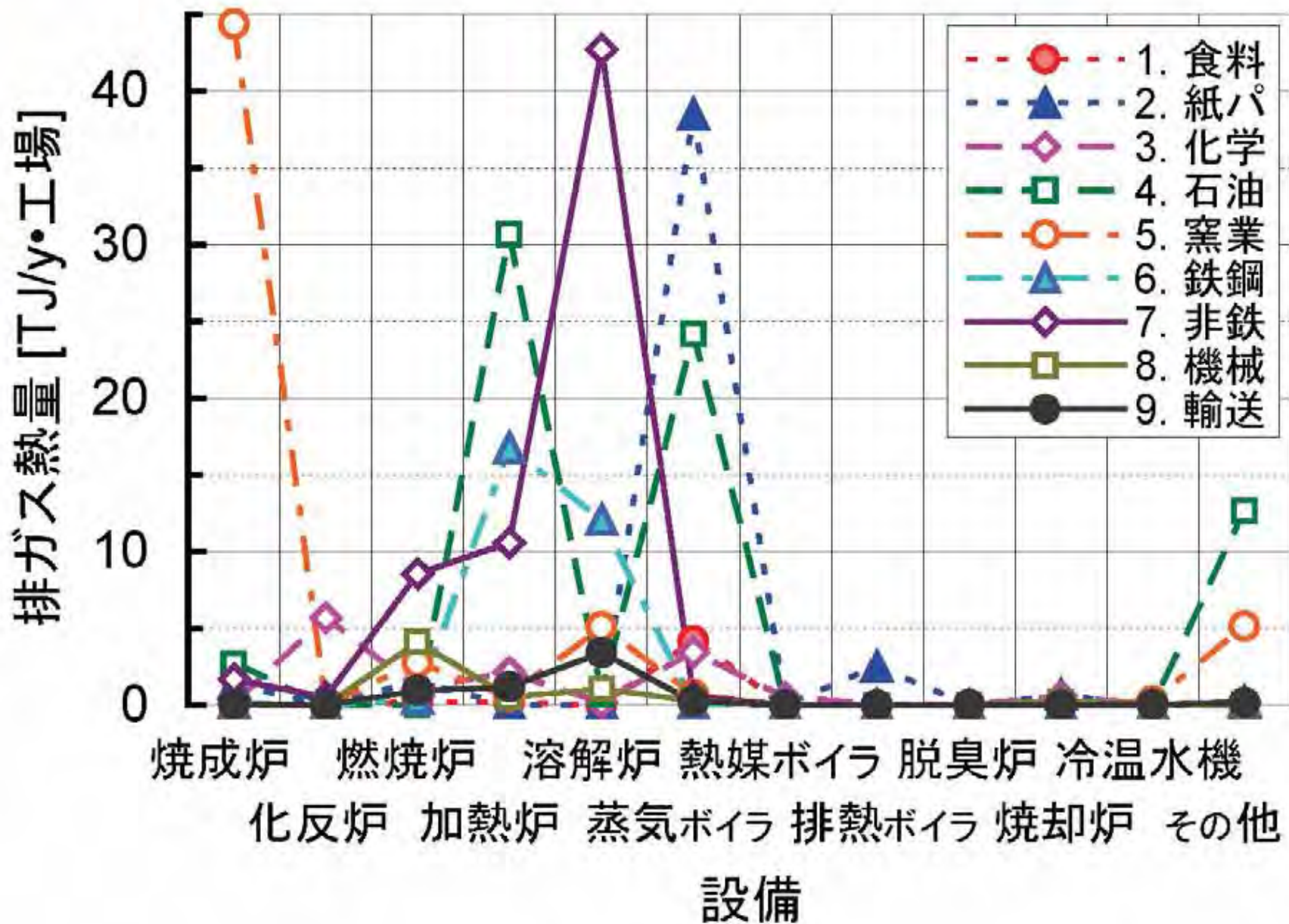


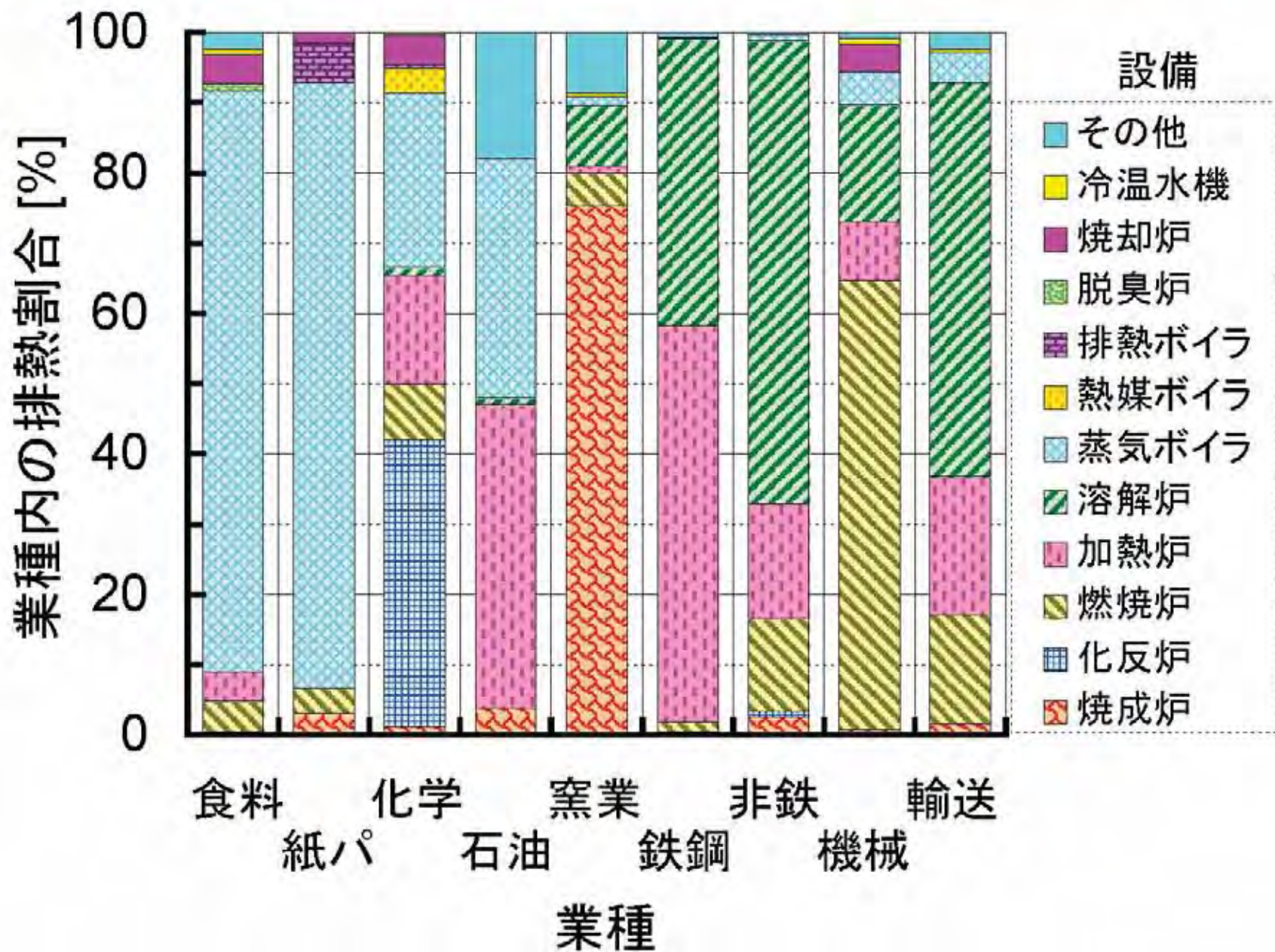
業種別の未利用排ガスの温度帯別割合



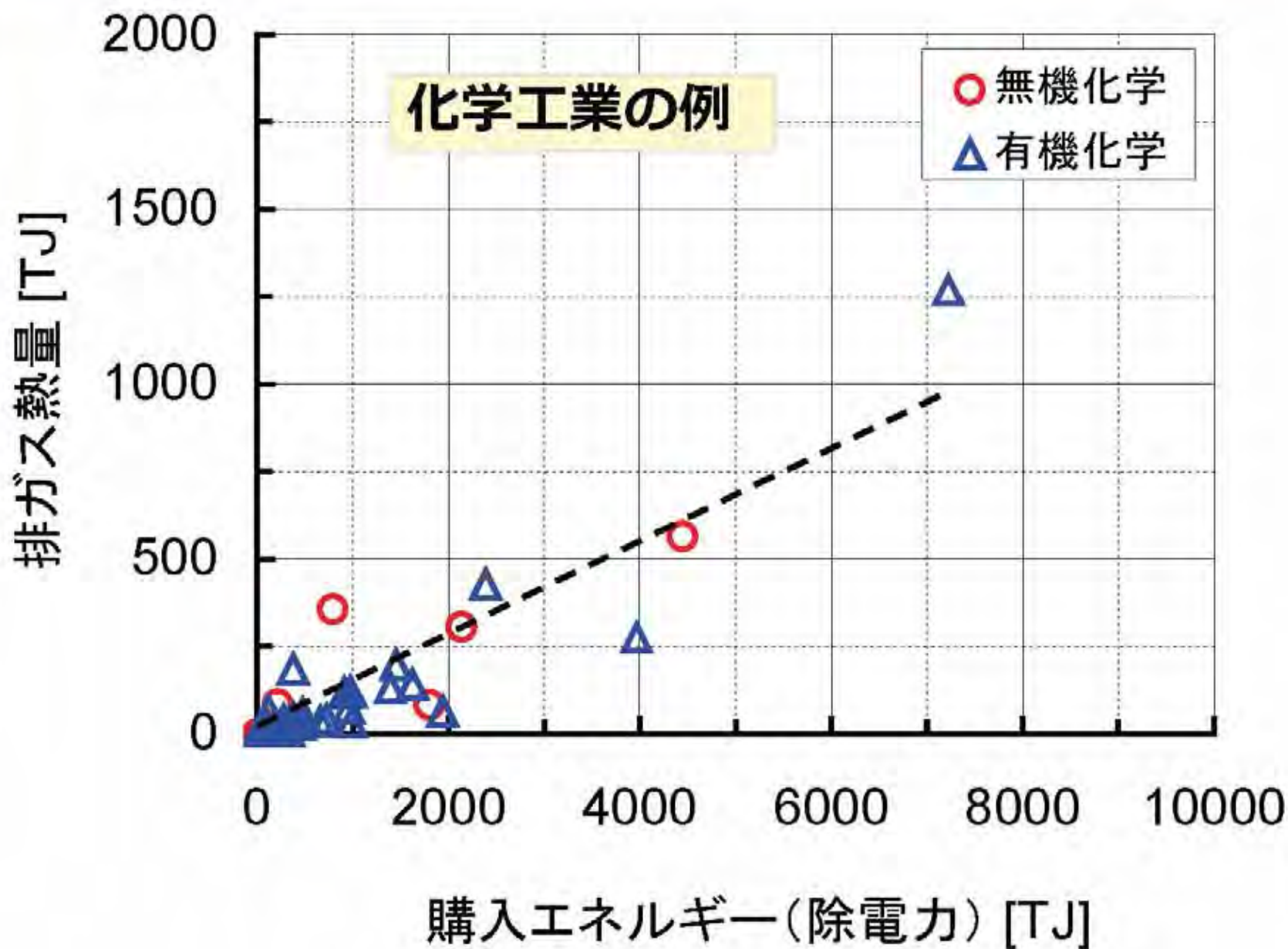
工場当たりの設備別の未利用排ガスの業種別熱量



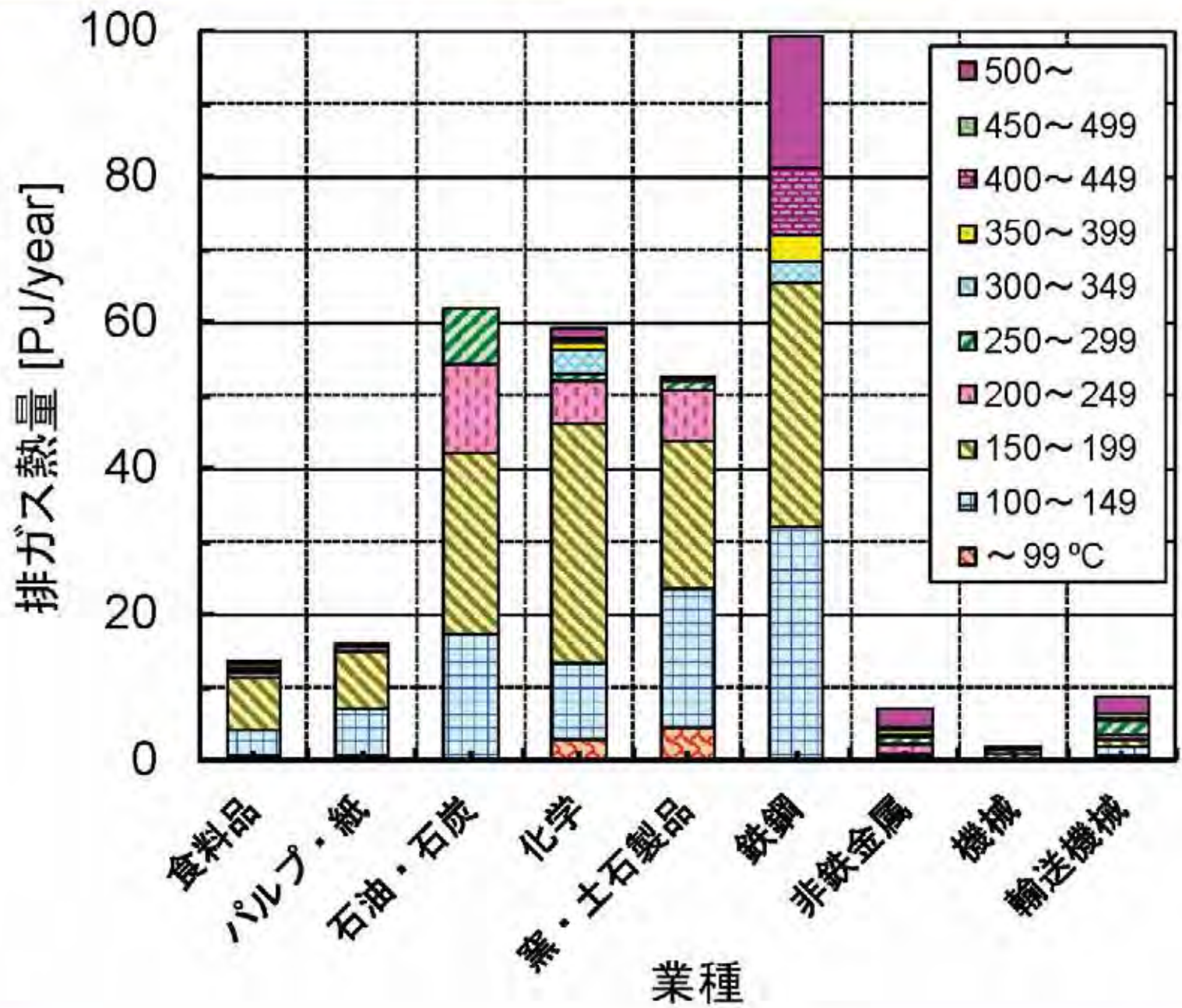
業種別の未利用排ガスの設備別割合



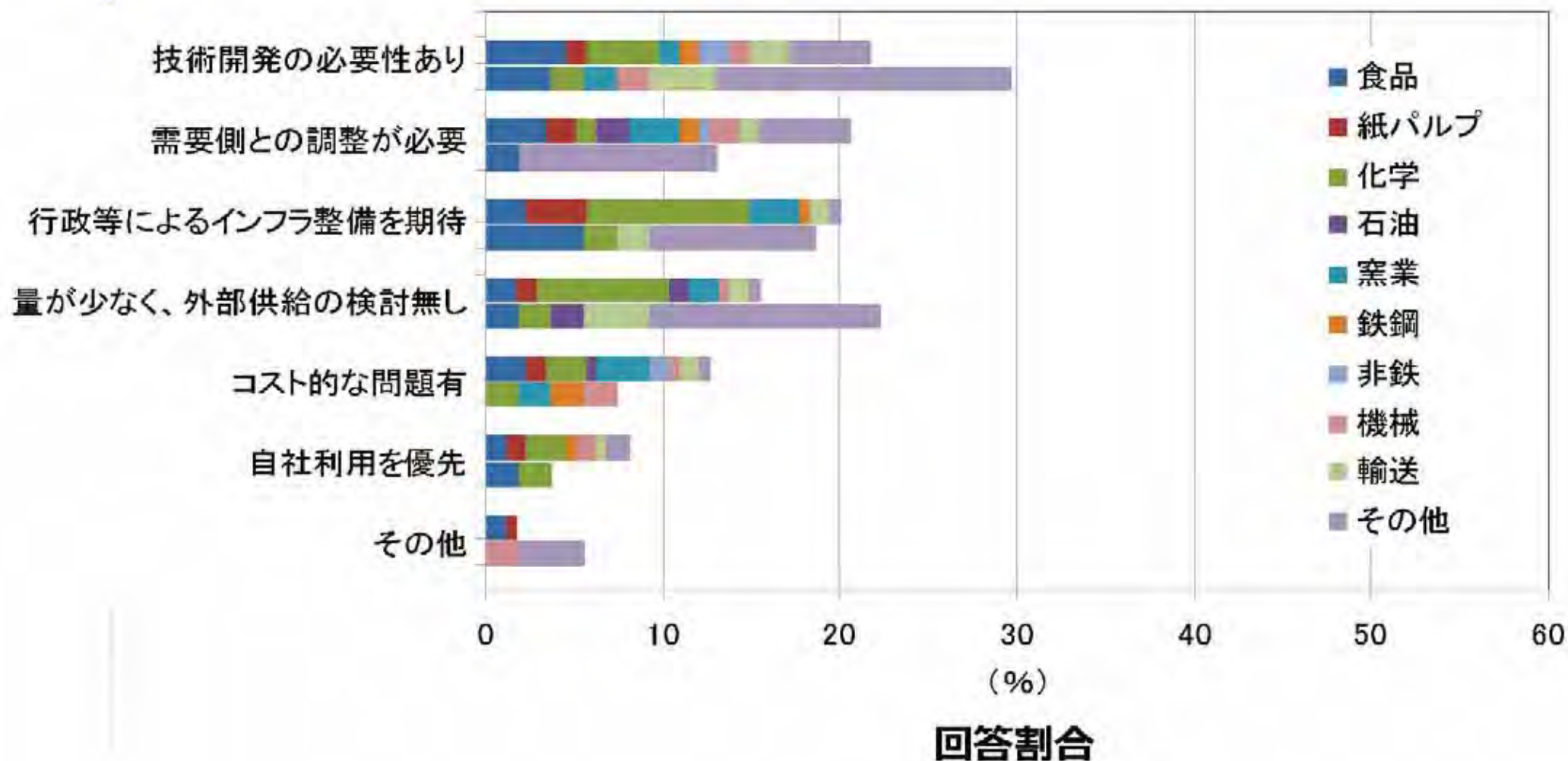
購入エネルギー量と排ガス熱量との関係



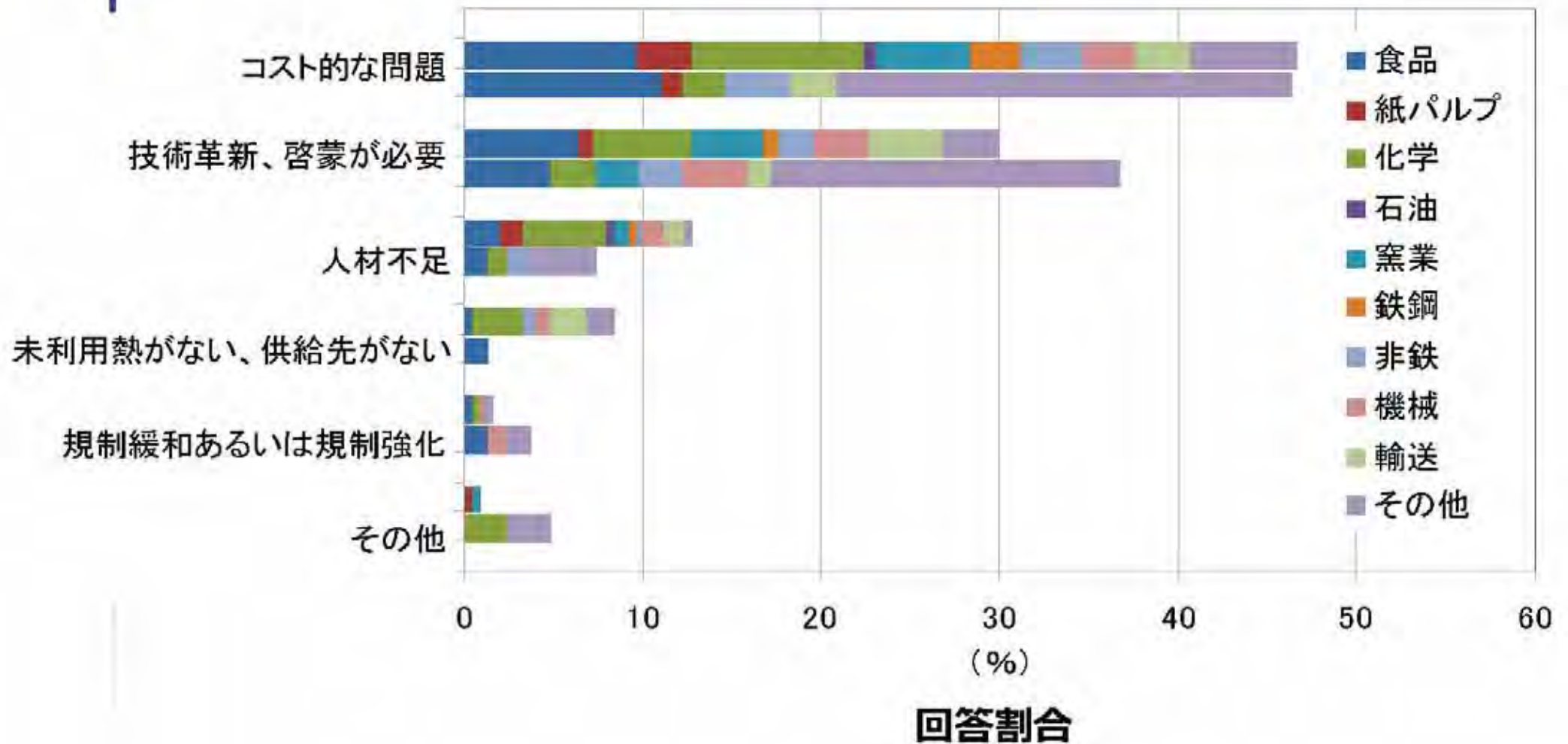
業種別、温度帯別帯の排ガス排熱（全国推計）



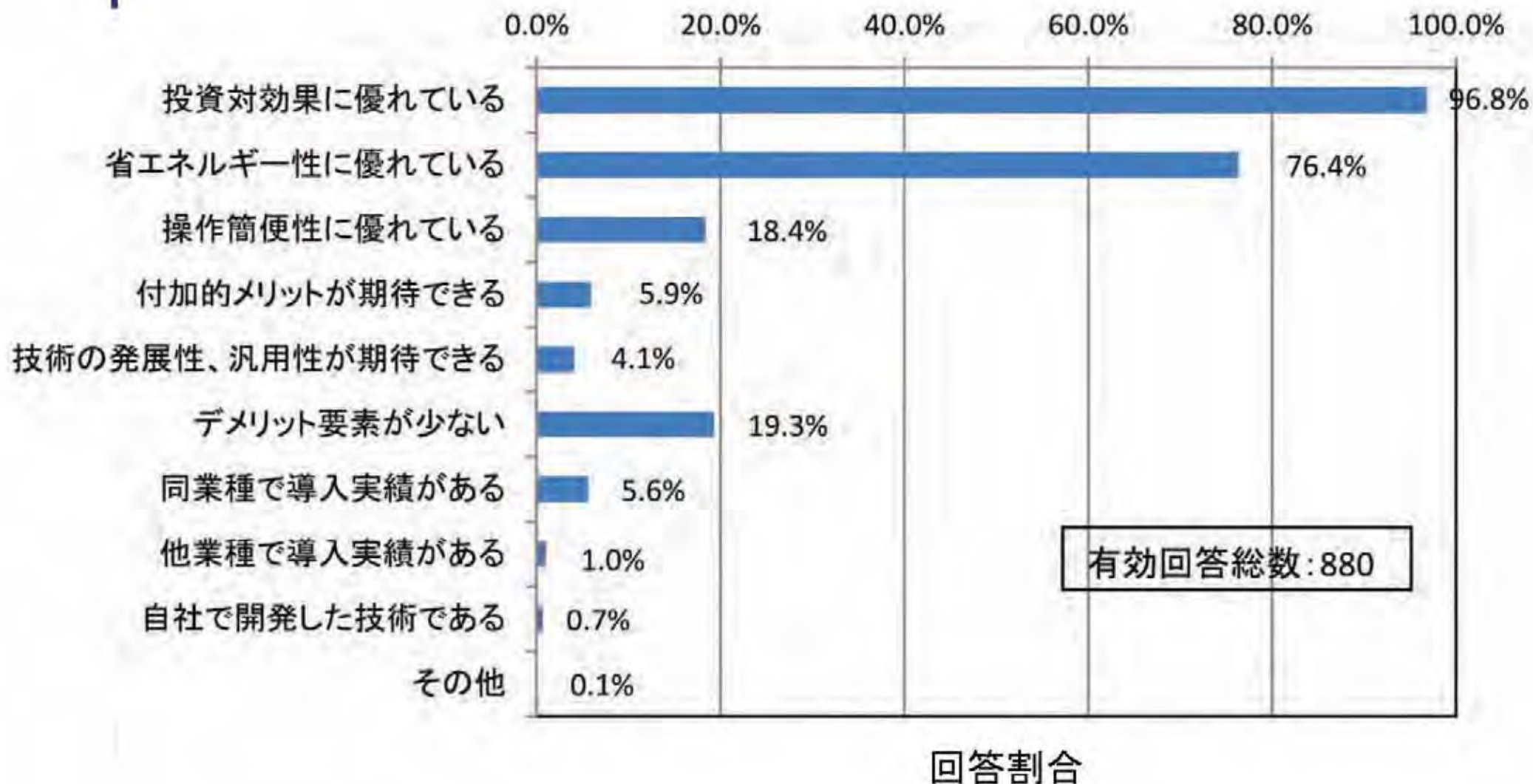
未利用熱の外部供給に関する意見



未利用排熱の活用技術の導入を妨げる要因



新技術を導入する際の条件



まとめ

熱多消費型の9業種（化学、鉄鋼、非鉄、窯業、石油、紙パルプ、食料、機械、輸送機械）の排ガスの未利用熱について

- 鉄鋼、非鉄、輸送機械業を除き、100～199℃の温度帯にピーク
- 鉄鋼、非鉄、輸送機械業では500℃以上の未利用熱も多く、熱電素子等の温度差の必要な発電熱源として今後の活用が期待される
- 食品と紙・パルプ業では蒸気ボイラからの排熱が多く、化学工業では化学反応炉、窯業は焼成炉、鉄鋼、非鉄、機械、輸送機械業では熔解炉からの未利用熱が多い
- 対象9業種だけでも、200℃程度より低温の排ガス排熱が、200 PJ/yearの規模で放出されていることが推察される